

安倍川水系 河川整備計画の概要



安倍川の概要

安倍川の概要

安倍川は、その源を静岡県静岡市と山梨県南巨摩郡早川町の県境に位置する大谷嶺(標高2,000m)に発し、山間部を流れて中河内川、足久保川等の支川を合わせながら南流し、静岡平野に出てから藁科川を合わせて静岡市街地を流れる一級河川です。

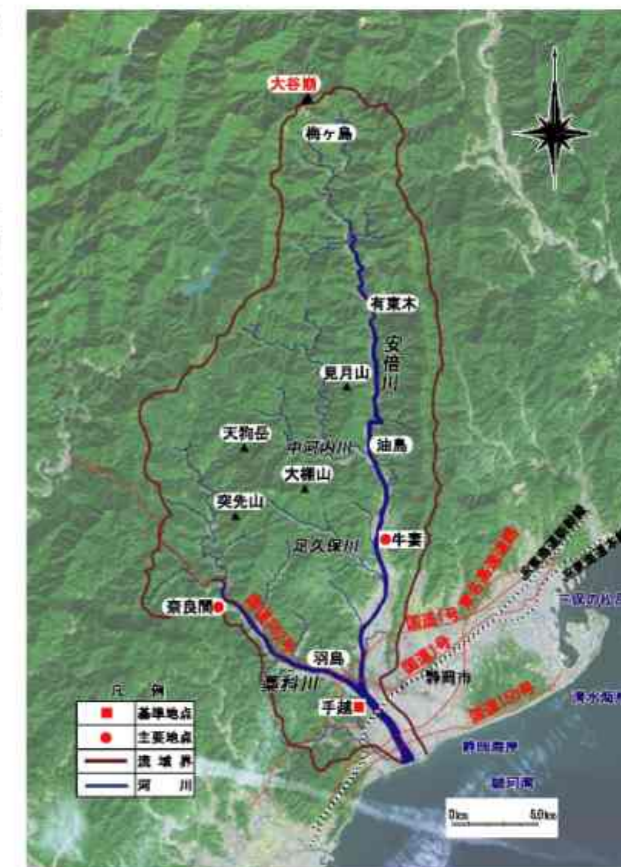
下流には我が国の大動脈である国道1号、JR東海道新幹線などの交通網や政治、経済、教育、文化、情報など中枢管理機能が集積しています。また、平成17年4月より静岡市は政令指定都市となっています。

川の長さ
幹川流路延長
51km

流域の広さ
流域面積
567km²



上流から安倍川、静岡市市街地を望む



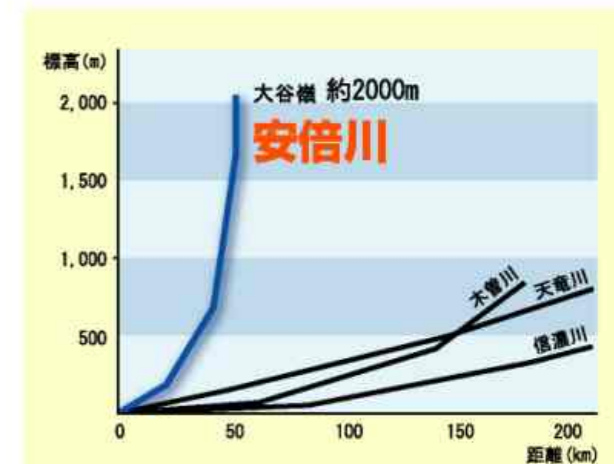
急流土砂河川の現状

日本3大崩れのひとつ「大谷崩れ」に代表される崩壊地等から膨大な土砂が生産され、下流の河川に流出してきました。また日本屈指の急流河川です。

大谷崩れは約300年前に大規模崩壊地になったと思われる、これまでの崩壊土砂量は約1億2000万m³(ナゴヤドーム約96杯分)と推定されています。



大谷崩れ(H17.11)



安倍川と中部の主要河川の縦断面図

河川整備計画の目標と対象期間等

国による安倍川の河川事業は、昭和7年に始まり、堤防、護岸、水門、樋門などの整備を進め、水害から地域を守る安全度の向上を図ってきましたが、静岡市内を貫流するという安倍川の重要度に基づいた安全度までには、まだ、到達していません。

今後も、河川事業を、河川の環境を保全しながら、計画的に進めていく必要があります。そのため、安倍川流域委員会の開催、住民意見交換会の開催などを通じて、学識経験者の方々、住民の方々の意見をお聞きしながら、安倍川の国管理区間で、今後概ね30年間に行うべき河川事業をとりまとめた「安倍川水系河川整備計画」を策定しました(平成20年3月27日)。

この安倍川水系河川整備計画に基づき、地域の安全・安心のため、河川の環境の保全のため、河川事業を進めてまいります。

河川整備計画の基本理念

「洪水及び多量の土砂に対して安全性を確保し、河川環境や景観を保全し、地域とふれあう川づくり」

河川整備の対象期間

河川整備計画では、その対象期間は概ね30年とします。

対象区間

河川整備の対象区間は、下図に示す区間です。



河川整備の目標

洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標。

観測史上最大流量を記録した昭和54年10月洪水と同規模の流量を安全に流す堤防等の整備を行うとともに、高潮や東海地震・津波に対しても安全な施設の対策を行います。また堤防等で守りきれない洪水が来た場合でも被害が軽減できるよう、二線堤の活用や情報提供などの危機管理対策を行います。

急流土砂河川であるため、海岸の保全を考慮した河道掘削や強固な護岸等の整備を進めます。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

安倍川の水環境が適正な状況になるように取り組むとともに、河川水とともに静岡市の発展や生活に欠かせない地下水について健全な水循環の構築を行うため関係機関や地域住民と連携しながら取り組みます。

河川環境の整備と保全に関する目標

河川の自然環境を生かし豊かなふれあい空間として河川の適正な利用を図ります。

河床や植生の変動性が非常に大きい急流土砂河川としての特性を踏まえた上で、動植物の生息・生育環境、特徴的な景観の維持や、清流安倍川としてふさわしい良好な水質の保全・改善を図ります。



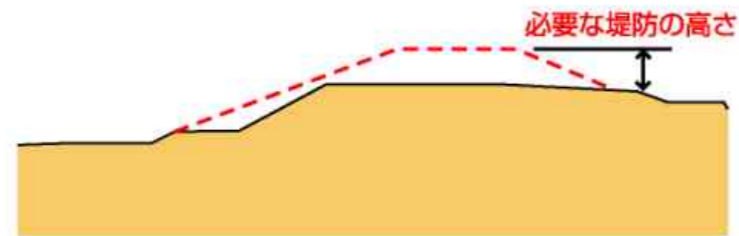
地域を洪水から守るため河川の整備を行います。

現状と課題

堤防の整備状況

堤防から洪水があふれないようにします。▶

堤防が整備されていない区間や堤防の高さや幅が不足している区間が残されています。



安倍川右岸8.0k付近 慈悲尾地先

現況河床の堆積状況

下流では河床が高くなっており、洪水の流れが堤防に向かう可能性が高く、堤防の危険性が増しています。



河床を下げます。▶



安倍川左岸6.0k付近

河岸の侵食状況

河岸侵食が発生し、堤防が危険となります。



高水敷や堤防を削られにくくします。▶



平成12年9月洪水(左岸11.75k付近)

霞堤開口部、支川合流点の現状

急流河川の安倍川の治水は霞堤からはじまり、治水効果をあげてきましたが、一方この様な浸水の恐れのある区域の一部では宅地化が進行しています。

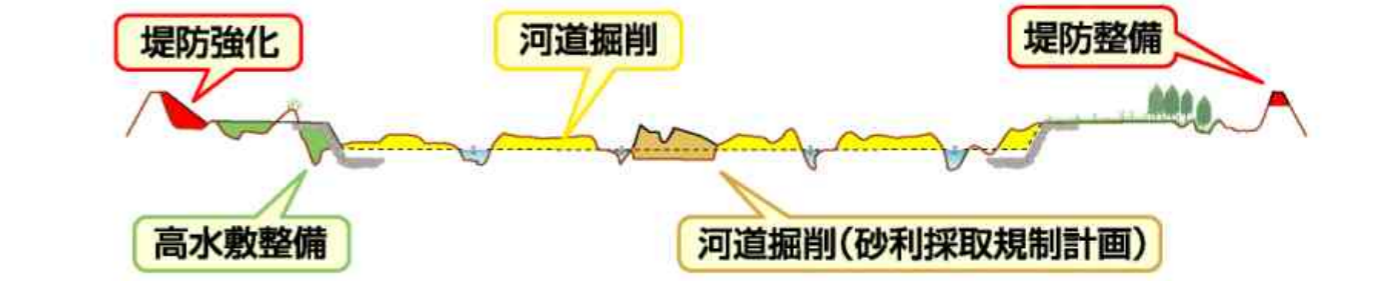
支川に洪水が逆流しにくくします。▶



大門川合流点

整備内容

観測史上最大流量を記録した昭和54年10月洪水と同規模の流量を安全に流すようにします。



- **堤防整備**
昭和54年10月洪水と同規模の流量が流れても安全なように堤防を嵩上げします。
- **堤防強化**
浸食に耐えるよう護岸の強化や水制の設置等を行います。また浸透対策として堤防断面の拡大等を行います。

- **河道掘削**
昭和54年10月洪水と同規模の流量が流れても安全なように3箇所において河道を掘削します。また安倍川全川において行う砂利採取規制計画による河道掘削においても河床を低下させ、掘削土砂を河川工事、海岸の養浜工事、骨材利用の優先順位で活用し、海岸侵食を助長させないような掘削をします。

- **高水敷整備**
堤防を守るために高水敷の整備を行います。

- **霞堤開口部、支川合流点対策**
治水効果のある霞堤の機能を維持するとともに昭和54年10月洪水と同規模の流量が流れても宅地に浸水しないように導流堤等の整備を行います。また霞堤内で土地利用が進行しないよう土地利用や規制の検討等を行います。

- **地震・津波対策**
緊急用河川敷道路を整備し、震災時に河川管理施設を早急に復旧するとともに、県・市等の復旧車両を第2東名、国道1号等の重要路線間の運行を容易にし、広域の災害復旧に寄与します。

※今後の河道の変化やモニタリング等により、施行場所及び工事内容については変更することがあります。



凡 例	
—	堤防整備、堤防強化
—	河道掘削
—	高水敷整備
○	霞堤開口部・支川合流点対策
⋯⋯⋯	緊急用河川敷道路の整備
00k	河口・合流点からの距離

水環境を改善する取り組みを行います。

現状と課題

渇水時には「水涸れ」が発生するほど水量が減少
 流況悪化時には安倍川大橋付近より上流において
 水涸れが発生しています。



水涸れしている状況(平成17年12月)

地下水を含めた水循環的視点
 に立った河川管理が必要

静岡市では、安倍川の河川水と地下
 水が重要な水源となっています。



静岡市(静岡地区)の水道用水の水源別取水量割合
 (総取水量: 217,543m³/日)

出典: 静岡市水道事業基本構想・基本計画 平成15年度版

安倍川の河川水と静岡平野の地下
 水は密接に関係しており、地下水を視
 野に入れた管理が必要です。



整備内容

- ① 安倍川に必要な水量を解明し、その確保方策を検討していきます。
- ② 河川水と地下水の水循環を解明していくとともに、健全な水循環系構築に向けた取り組みを関係機関や地域住民と一体となって推進していきます。

豊かな環境を守り、利用しやすい川にします。

現状と課題

安倍川の河川空間は身近に自然とふれあえる場、レクリエーションの場として貴重な空間
 安倍川は地域のいきいこの場として利用されています。



河川空間の利用形態(H15調査)



環境学習の様子(安倍川1.2km付近右岸部)

安倍川は多種多様な動植物の生育・生息場

安倍川は多種多様な動植物や、舟山や木枯の森など、特徴的な河川景観を有しています。



砂礫河原に生息するコアシサシ



地域に親しまれた安倍川の特徴的な河川景観である舟山

全国でも有数の良好な安倍川の河川水質

安倍川は、政令指定都市である静岡市を流れているにもかかわらず、河川水質ランキングで全国1位(平成18年調査)になるなど、全国でも有数の清流です。

整備内容

① 河川空間の適正な利用

- 人と人とのふれあい、人と川のふれあいの空間として適正に維持、保全に努めます。
- 地域住民との協働により、河川管理を推進していきます。



市民との協働活動(ラブリバーの様子)

② 河川環境・景観の保全

- 良好な自然環境や生物の生息場所の多様性を、関係機関とともに極力保全します。
- 地域に親しまれた特徴的な河川景観を保全していきます。



多様な生物の生息場所となっている河畔林

③ 河川水質の保全

- 水質の監視及び公表を行います。
- 水質事故発生時には関係機関と連携し被害の拡大防止を図ります。
- 住民との協働による水質管理を実施していきます。



水生生物調査の様子

堤防などを適切に管理し、関係機関などと連携し洪水に適切に対処します。

- 河川巡視等により施設の異常等を把握し、適切な維持管理を行います。
- 二線堤、陸閘等の適正な維持管理を行います。
- 水位・雨量情報の提供、洪水予報の発表、洪水時の河川巡視、異常箇所の発見を行い、関係機関と連携して防災活動を行います。
- 浸水被害を最小限に抑えるため、住民の防災意識向上の取り組み、浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成の支援を行います。



河川巡視状況



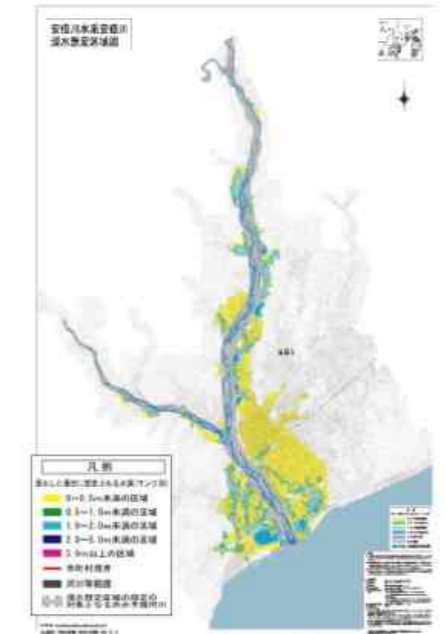
水道町陸閘



安倍川水防演習・複合型災害防災実動訓練(平成19年度)



主な二線堤と陸閘の位置図



安倍川の浸水想定

流出土砂対策に取り組みます。

現状と課題

昭和30年代から昭和40年代前半にかけて大量の土砂を安倍川から採取したため、海岸の砂浜が失われ、被災するようになりました。

その後土砂採取を中止し、砂浜は復活しかけていますが、安倍川の下流部は土砂が貯まり洪水が流れにくくなっています。



土砂の堆積により河床の高さが上昇しています。(安倍川左岸6.0km付近)

整備内容

- ① 洪水を流しやすく、海域に土砂を供給しやすい河道掘削等を検討・実施します。
- ② 土砂生産・流出域、河道域、海岸域を含めて、総合的な土砂管理を行います。



清水海岸の被災状況



安倍川近傍の静岡海岸の砂浜回復状況

安倍川の川づくりの進め方

みなさんと一緒に川をよく見て、安全でより良い川づくり

関係機関、地域住民との協働・連携

- 河川環境保全モニター制度を活用するとともに、地域住民と一体となった川づくりを行います。
- 関係自治体と協力して地域の団体・ボランティアを積極的に支援するとともに、住民参加による河川清掃などを実施し、地域と一体となった川づくりを進めます。
- 川づくりの技術的課題を解決するため学識経験者等で構成された委員会を設置します。

地域住民の関心を高めるための広報活動

- 安倍川に関する情報を掲載したパンフレットや副読本の作成、インターネットの利用、マスコミへの情報提供等により安倍川の情報発信をしていきます。

河川整備事業の推進

- 事業を進めるにあたっては、モニタリング及び評価、検証等を行い、計画・施工・維持管理にフィードバックするプロジェクトマネジメントを実施します。
また、事業の内容と効果等を地域住民に情報提供することにより、地域住民と連携・協働した河川整備を推進します。

共助体制の再構築

- 昔ながらの地域コミュニティが衰退し、また、水防団員の高齢化・減少などにより、災害時の共助体制が脆弱になってきていることから、社会状況の変化を踏まえた共助体制の再構築に向けて、これを支援します。

地域特性に応じた事業の展開

- 氾濫域内の土地利用・住まい方の状況等を踏まえ、地域毎の必要性に応じた安全度等の確保を図るべく、事業を展開します。

国土交通省静岡河川事務所のホームページで、安倍川水系河川整備計画を見ることができます。

国土交通省静岡河川事務所のホームページは、以下のアドレスです。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/>

- 安倍川水系河川整備計画を見るには、**ここ**をクリックしてください。

お問い合わせ

国土交通省中部地方整備局 静岡河川事務所
〒420-0068 静岡市葵区田町3丁目108番地
TEL (054)273-9100

静岡河川事務所 調査課
〒420-0068 静岡市葵区田町3丁目108番地
TEL (054)273-9104
mail river06@lily.ocn.ne.jp

